

## 1 人 1 台端末時代における情報科教育の役割と可能性

主催： 日本情報科教育学会全国大会企画委員会

コーディネータ： 香山 瑞恵（信州大学）

パネリスト： 林 一真（名古屋市立白水小学校 教諭）

青山 陽介（春日井市立岩成台中学校 教諭）

長江 一範（福岡県立糸島高等学校 教諭）

鹿野 利春（京都精華大学 メディア表現学部 教授）

（発表順）

### 1. はじめに

GIGA スクール構想により，本年度から小・中学校における 1 人 1 台端末環境下での学びが本格的にスタートしています。また，高等学校でも 1 人 1 台端末を整備している，あるいは検討中の自治体が複数あります。さらに，新学習指導要領では，情報活用能力が言語能力と同様に学習の基盤となる資質・能力として位置づけられました。

このような状況において，本大会では，小・中・高等学校をつなぐ“縦断的な視点”と，各校種において教科等を連携させる“横断的な視点”から，情報科の果たす役割と可能性について議論を進めてまいりました。

### 2. 問題設定

全国の小・中学校の授業等において，高速通信ネットワーク環境下での 1 人 1 台端末の活用が進んでいると思われませんが，この数ヶ月の間で実際に活用しての気づきや，問題点等も出てきていると思われま

す。そこで，本パネルディスカッションでは，小・中・高等学校での 1 人 1 台端末に関する取り組みや実践を踏まえて，縦断的かつ横断的な視点で 1 人 1 台端末を効果的に活用するためのアイデアを共有するとともに，1 人 1 台端末時代における情報科の果たす役割と可能性について議論していきます。

### 3. パネルディスカッションの概要

まず，小・中学校における 1 人 1 台タブレット端末の活用状況や問題点等について，小学校からは林一真先生，中学校からは青山陽介先生よりご発表いただきます。

次に，高等学校における 1 人 1 台タブレット端末に関する今後の活用計画や問題等について，長江一範先生よりご発表いただきます。

最後に，情報科教育において 1 人 1 台端末の環境をどのように活用すれば良いかというポイントについて，元国立教育政策研究所教育課程調査官／文部科学省教科調査官で，現京都精華大学教授の鹿野利春先生よりご発表いただきます。

パネルディスカッションにご登壇いただく 4 名のパネリストの発表概要は次の通りです。

#### 1) 林 一真 氏

名古屋市立白水小学校に在籍を置きながら，名古屋市公立学校の指導員（情報教育担当）として，週 2 日間，名古屋市内の小・中・養護学校に出掛け，授業の指導・助言をしたり，1 人 1 台タブレット環境における授業づくりの研修を行ったりしています。

パネルディスカッションでは，1 人 1 台端末環境において，どのような授業が求められるのか，具体的な小学校の授業実践例をもとに，情報活用能力の育成の視点で，話をしていきたいと考えています。

2) 長江 一範 氏

大学にて情報工学を専攻し、福岡県内の私立高校での勤務を経て、平成 31 年より福岡県立糸島高等学校情報科教諭として教壇に立っています。授業の傍ら、校内のネットワーク管理者として ICT 機器の管理や配備を行っています。

福岡県では、GIGA スクール構想が打ち出される以前から全教室への Wi-Fi や電子黒板設置等 ICT 整備が行われてきましたが、構想が発表されて以降、コロナ禍の後押しもありその動きが急速化しました。生徒所持のスマートフォンを校内 Wi-Fi に接続する BYOD をはじめ、Chromebook の大量配備、Google Cloud プラットフォームの推進等、現在も毎月新しい施策が下りてきます。環境が充実する反面、活用できる教員の知識や技術が追い付かず、人員も不足するという課題が浮き彫りとなっております。

3) 青山 陽介 氏

安城東高校一愛知教育大学卒業後、愛知教育大学大学院を修了(教育学修士)。その後、公立中学校で 16 年間勤務し現在教務主任を務めています。この 5 年間は愛教大の非常勤講師としても勤務しています。また、春日井市情報教育部会の一員として市の情報教育推進に取り組んでいます。

今回は、昨年度、1 人 1 台端末環境が整う前にどのような取り組みをして準備を行ったか、また導入時に留意したことや、どのような活用からスタートしたか、そして、校内に活用の輪を広げていくためにどのように情報共有して進めたかについて、まずお伝えします。

また、本年度より、本格的に授業や校務の情報

化に繋がるように 1 人 1 台端末環境を活用し始めたことや、取り組む中で見つかった課題などを本パネルディスカッションで共有し、新たな知見を得たいと考えています。

4) 鹿野 利春 氏

京都精華大学メディア表現学部教授、大阪芸術大学アートサイエンス学科客員教授、文部科学省視学委員を務めています。2021 年 3 月までは、高等学校情報科の教科調査官として新学習指導要領の作成、小・中・高の情報教育、GIGA スクール構想等を推進してきました。京都精華大学に新しくできたメディア表現学部でメディア情報専攻に属し、1,000 人以上対象の遠隔授業も担当しています。大学の中では最も情報科学寄りの分野を担当しつつ、情報科教員養成課程を準備中です。現在は、実教出版編集、Life is Teck!, アシアル、みんなのコード、Google 等と協力して、高等学校情報科の教材等の開発を行っています。

本講演では、1 人 1 台時代の高等学校の教育、情報科の役割とカリキュラム・マネジメントについて議論を深めたいと考えています。

最後に、会場の皆様からのご意見・ご質問も含めて、コーディネータやパネリストの先生方でディスカッションを行います。参加者の皆さまからの積極的なご意見・ご質問をお待ちしています。

文責：浅羽 修丈 (北九州市立大学)

井手 広康 (愛知県立小牧高等学校)

梅田 恭子 (愛知教育大学)